

# 語り直されるキリシタンの記憶

## — 日仏比較から考える歴史と地域 —

Renarrating Kirishitan Memory: History and Locality in Japan-France Comparison

### 趣旨

明治維新前夜の時代、ヨーロッパでは日本人殉教者を「聖人」として顕彰する列聖運動が進められる一方、日本を実際に訪れたフランス人宣教師たちは、長い禁教の時代を経て埋もれていたキリシタンの足跡を次々と掘り起こしていった。本ワークショップでは、こうした近代における宗教的記憶の再構成に光を当て、キリシタンの歴史がいかにかに発見され、語り直されてきたのかを、日本とヨーロッパの比較の中で読み解く。とりわけ、京都・大阪・奈良における具体的な歴史実践と、世界のカトリック教会の動きが交差する場に注目し、記憶はいかにかに継承され、いかなる対話の可能性が開かれるのかを探っていく。

### 開催情報

**日時** 2026年3月13日 (金) 15:20~17:30 (予定)  
(受付は15時~)

**場所** 奈良県立大学 コモンズ棟 オープンスペース

**参加費** 無料

**定員** 30名 (登録制、先着順)

### プログラム (予定) ※全編日本語での開催となります。

15:00-15:20	開場、一般参加者受付
15:20-15:30	開演、趣旨説明
15:30-16:00	小俣ラポー日登美 (本学 准教授) ヨーロッパで「再発見」された日本の殉教者たち——教皇庁とフランス語史料が語る列聖運動
16:00-16:30	Martin Nogueira Ramos (フランス国立極東学院 准教授) 日仏の史料からみる関西における1880年代のカトリック教会の布教活動 ——エメ・ヴィリオン神父とその日本人伝道士を事例に
16:30-16:45	休憩
16:45-17:00	稲賀繁美 (国際日本文化研究センター 名誉教授、京都精華大学元教授) コメント
17:00-17:30	ディスカッション・質疑応答



参加登録申込はこちら

3月11日 (水) までにご応募ください。

### お問い合わせ

奈良県立大学  
ユーラシア研究センター  
E-mail: nara-eurasia@narapu.ac.jp  
TEL: 0742-93-7245  
(平日8:30-17:15)

### アクセス

〒630-8258  
奈良市船橋町10番地  
JR奈良駅 (東口)  
近鉄奈良駅 (7番出口)  
より徒歩約10分

駐車場はございませんので  
公共交通機関をご利用ください。

